

ティポが全開で創るアルファ・ロメオ ONE MAKE クラブマガジン!

NEKO MOOK 395

Tipo
Dramatic
Car-magazine

ALFA &

VOL. 3

アルファ&ロメオ3

ROMEO



スペシャールな アルファが欲しい。

●特集1
147CUP日本上陸!
徹底レポート&チューンドモデル最前線

●特集2
ES30 SZ 総力特集
vs 156GTA、チューンドモデルまで登場!!

- コイツが大本命!
156JTS試乗レポート
- アルファ・タイムス
- 「初めてのARチャレンジ!」
～イベント情報
- 「アルファ de “まったる”」
How to ツーリング
- チューンド・アルファ・タイムス
- アルファを降りても!
～ワイン編～
- ジュリアで全開105%!!
- そりゃアルファ!
「スタッフのアルファ・ロメオ」



田中むねよし
「HEART DIARY」
イラスト・エッセイ&アルファお絵描き教室





ヘッドライトスポイラーは、こんな距離で眺めてしまうと、ちょっと眠そうだけど、全体で眺めるとフロントマスクが精悍な印象に。130000円。



ノビテックからは S/C用エアロキットと ヘッドライトスポイラーがリリース

ノビテックジャパン tel:054-277-0753

ターボやスーパーチャージャーといった過給器を使ったアルファチュニングで注目されるノビテック。過給器をただボン付けするのではなく、1台1台エンジン内部にまで手を入れた仕上がりはチューナーの粋を越えたものだ。コンプリートモデルは、まるでメーカーから送り出されたかのような乗り味を体験させてくれる。それは、ボディを武装するスポイラー類に施されたデザインにも通じ、ドイツに本拠を置くメーカーながらもイタリアンテイストに溢れ、決して基本のボディラインを崩すことがなく、精悍さと力強さを兼ね備えたものとなっていることが特徴だ。そんなノビテックから147スーパーチャージャーモデル用エアロキットがリリースされた。キット価格は18万円で、単品でも購入可能。本格的なチュニングは予算の都合でできないけれど、ノビテックのテイストが欲しい！ そんなオーナーには特におすすめるのである。

レースサポートから生まれた ベルグ 147エアロキット

ベルグ tel:045-583-0911

G T選手権のボルシェにもエアロのサポートを行なっているベルグから、147用パーツがリリースされた。それらに与えられた特性は、性能を第一に考えられたもので、中空バーを使用したフロントタワーバーやオールステンレスマフラーなど、コンペティションユースにも使用可能なクオリティで作られていることが特徴。また、ベルグが得意とするスポイラー類は、アルファ本来のデザインを崩すことなく、絶大なダウンフォースと整流を実現している。同時に156用も用意されているので、そちらも要注目である。



前ページで紹介した147カップカーよりも大きなサイズで、絶大なダウンフォースを発生するルーフスポイラー。42000円。



オリジナル・オーダーのパーツが自慢

レッドポイント147

レッドポイント tel:0583-70-5064

アルファに限らず様々な車種にチュニングを施してくれる岐阜のレッドポイント。数々のサンデーレースにクルマを送り込んできた経験と、そこで培われたノウハウによって作り上げられた車両は、独特の手法によって、オリジナルティあふれるものとなっている。ここで紹介する147も同様で、チタンマフラーに始まり、オリジナルセットのビルシユタインシヨック、ノビテックのタワーバー、モモのセミバケットシート、ブレインボ製キャリパー、スピードライン製ホイール、BMCエアクリナーなど、様々なメーカーのパーツがまるで寄せ集めのように使用されている。ところが、それが一つのまとまりと化しているあたりに、レッドポイントのセンスの良さやパーツ選びの確かさが伺えるのだ。



超本格ストリート仕様開発開始! アルファード147

tel:0272-60-6355



アルファード

◎群馬県前橋市日吉町4-42-1
群馬県関連自動車道前橋I.C.約20分
ボディビルドのアルファードと異名をとるくらい、ボディワークには定評がある。



Tipos33 ストラダーレを彷彿とさせるバルディーレ・モーダ(16inch 7Jx30 5H/98)を装着。1本当り6.7kgという軽量ホイールだ。



美しい仕上がりのオリジナル排気システム。まずセンターとリアが発売されるが、年末にはフルEXシステムが完成するというから楽しみだ。



A & R2で紹介したザガートボディの155をプロデュースしたアルファードが、今度は一転、ソフトウェアイトされた147のプロデュースを始めた。ベースは5ドアのセレスピードで、ストリートを気持ちよく走ることには主眼が置かれたチュニングが施されるといふ。まず第一弾としてリリースされるのが、オリジナルエキゾーストシステムだ。金子代表が「ヌケとフケ上がりは最高です」と豪語する自信作は、年末にリリースされるEXマニホールドシステムとして完成される。147を超本格ストラダーレに変身させるメニューには、オリジナルのエアロパーツをはじめ、前後タワーバー、バラレルリンクといった足廻り補強がなされた上、現在アルファードでイチ押しだと言う「チノカーボン」チュニングが施される。これは、接点復活剤のようなもので、効率よく電気を流すためのケミカルだ。そして、17インチタイヤに合わせた、街中々々をメインステージとしたサスキットも製作される予定になっている。前号でプロドライバーを驚愕させたセッティング能力が、どこまでストラダーレに反映されるのか非常に楽しみだ。次の機会では、更に進化したアルファード147を見てみよう。

